



2016年9月入職

こいわいゆかり  
小祝友香理

## 職種を越えて協働する楽しさを知って

### 自分を奮い立たせる原動力

以前働いていた病院は通っていた看護学校と提携しており、定年までここで勤めるのだと当たり前のように思っていました。清水の舞台から飛び降りる覚悟で転職したのが、3年前のこと。以前は夜勤があったため、3人の子どもを育てながら働くことに段々と無理が生じ始めていました。その点、夜勤が発生せず、なおかつ子育てへの理解がある今の環境は、まさに私が望んでいたものです。例えば、子どもの都合で急遽帰らないといけなくなったときにも、他のクリニックのスタッフがヘルプで来てくれます。私の個人的な事情に配慮してくれる上長や同僚には、感謝しかありません。

今でも覚えている出来事があります。入職したばかりの頃、子育てと仕事の狭間で悩んでいました。子どもの都合で仕事に穴を開けることが多かったため、ある日上長から呼ばれたときには、てっきり叱責されると思っていました。ところが、「(今のあなたは)仕事は二の次でいい。後は私たちに任せて」。上長の言葉に、一瞬耳を疑いました。遅れて、涙がこぼれてきました。当時は心が折れそうになっていたのですが、「自分は孤独ではないのだ」という安心感が胸に込み上げてきたのです。こういうかっこいい人がいるからこそ、みんな善仁会グループで働いているのだと思いました。自分を奮い立たせる原動力になっている出来事であり、今でも折に触れて思い返しています。



### 治療だけではない、私たちの役割と理想のために



思いやりエキスパートに立候補したのも、上長が声をかけてくれたことがきっかけです。自分自身が成長したいという思いと同時に、自分がチームを統率する役割を担うことで、上長に恩返しをしたいという気持ちもありました。私が理想としているチームは、患者さまの充実した生活に貢献できる集団です。クリニックにいる時間はもちろん、非透析日の時間も幸せに過ごせていただけるよう、治療だけを見るのではなく、生活すべてを俯瞰しながらサポート

することが私たちの役割だと思っています。理想を実現させるためには、チームプレーが欠かせません。これまでは自分の仕事に粛々と取り組むタイプだったのですが、研修でチームビルディングを学んだことで、職種を越えて協働する楽しさを知ることができました。研修を受ける前と比べて、まわりへの声かけは確実に増えたと思います。クリニック全体の連帯感を高めながら、一人では得られない達成感を得たいと思っています。

関わる全ての方に誠実に笑顔で接し  
安心や信頼を寄せて頂ける存在でありたい

小祝友香理